

幅広い講演テーマで情報交換

繊維リサイクル技術研究会

廃材由来楽器の分科会を新設

（一社）日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会（委員長・木村照夫京都工芸繊維大学名誉教授）は2022年12月19日、第145回情報交換会をハイブリッド開催した。大阪科学技術センター（大阪市）会場とオンラインの合計で102人が参加。「こんな話も聞いてみよう」をテーマに3題の講演が行われた。

ライオンの快適生活研究所お洗濯マイスターの片木徹也氏は、「衣服を長持ちさせる洗濯のコツについて」と題

し、関連商品や洗剤・洗濯機コースの選び方

の他、商業用洗濯であるリネンサプライ市場の特長などを解説した。ザ・ウールマーク

・カンパニーの商品開発・教育・ライセンス担当マネージャーの西沢智裕氏は、「ウール、循環する繊維」をテーマ

に、世界最大のメリノウール生産国であるオーストラリアの羊毛産業を紹介。再生可能で生分解性を持つウールのサステナビリティについて説明した。

滋賀県立大学の教授の森下あおい氏は、22年9月に「なんばマルイ（大阪市）で開催した学生主体のイベント「私たちのSDGs」で「私たちがSDGs、繊維製品の循環をめざして」の実行委員長として報告を行い、得られた知見や今後の展望について語った。

同研究会は、アパレル企業や故繊維業者、リサイクル関連事業者、学識者などが加盟し、業界の川上から川下まで幅広いネットワークを構築している。今回、新たに分科会を

設立し、繊維廃材を用いた楽器の創作に乗り出した。楽団「FUB（Fiber Up cycle Band）」も結成し、3月18日開催の情報交換会では、試作楽器での演奏を披露する予定だ。